

平成 21 年 4 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006.4～2010.3
 課題番号：18530184
 研究課題名（和文） ネットワーク DEA による地域再生政策のモデル化と効果計測手法の研究
 研究課題名（英文） Performance Evaluation of regeneration policy by network data envelopment analysis
 研究代表者
 丸山 幸宏（Yukihiro Maruyama）
 長崎大学・経済学部・教授
 研究者番号：18530184

研究分野：社会科学
 科研費の分科・細目：経済学・応用経済学
 キーワード：地域経済学、地域再生

1. 研究計画の概要

本研究は、大きく分けて①ネットワーク DEA をはじめとする数理計画的経営分析手法の研究、②地域経済の連関しあう各 DMU 間のストリームまで考慮したモデル化手法の開発、③現実の地域再生計画の実態調査とモデル化対象の抽出、④モデル化された複数の地域再生計画の比較分析実験、⑤ベンチマーク・テスト手法の検討および政策化へのデザイン手法の検討、にブロック化できる。

2. 研究の進捗状況

理論的予備研究および実態調査の予備調査が進んでいる。①に関しては、ネットワーク DEA をはじめとする数理計画的分析手法に関する予備的研究、②に関しては、DMU 間のストリームまで考慮したモデル化手法のサーベイを行い、③に関して、地域再生計画についての予備調査を行った。

3. 現在までの達成度

数理計画的経営分析手法の研究は半ば以上達成している。地域経済の手法の開発、地域再生計画の実態調査に関してはまだ初期の段階で、サーベイや予備調査の段階である。まだモデル化の段階まで達成していないので、複数の地域再生計画の比較分析実験、ベンチマーク・テスト手法の検討および政策化へのデザイン手法の検討には至っていない状況である。

4. 今後の研究の推進方策

地域経済の連関しあう各 DMU 間のストリームまで考慮したモデル化手法の開発、現実の地域再生計画の実態調査とモデル化対象の

抽出について推し進め、地域再生政策のモデル化を行う。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

・positively bitone sequential decision process, Proceedings of the fourth international conference on nonlinear and convex analysis, 2007, pp.341-353.

・Strong representation of a discrete decision process by positively/negatively bitone sequential decision process, Asia-Pacific Journal of Operational Research, vol.24, 2007, pp.181-202.

・Algorithms for recursive bitone sequential decision process, Proceedings of Kosen workshop MTE2008, vol.2, 2008, pp.55-75.

・Algorithm to obtain optimal policies of recursive bitone sequential decision process, Proceedings of the fifth international conference on nonlinear and convex analysis, 2009, pp.105-119.

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕